

原町長に「保育所待機児ゼロ、幼稚園3才児受け入れ」の公約実現をただす

6月議会 小川議員の一般質問

「幼稚園3歳児復活は困難」(全協で報告済)
原町長からお詫びなどコメントは？

小川議員は「平成25年4月から、幼稚園の3歳児を受入にむけて、いろいろと課題はあるが課題の克服に向けて、一つ一つ精査して着々とすすめている。」(5月1日発行の「田尻町議会だより」に掲載された原町長の答弁)しかし、5月31日の全協では、「復活は困難」と報告されたことについて、公約との関係で町民へのお詫びやコメントを求めました。

「公約違反だとは思っていない」と原町長
原町長は「3歳児を受け入れることには変わりはない。4歳5歳の合同保育にスムーズに入れるよう3歳児教育プレ幼稚園かなと思っっている」「きちんとした幼稚園児ではないかもしれないが、3歳児を受け入れることになら問題はないと思っっているので、公約違反だとは思っていない」と答えました。

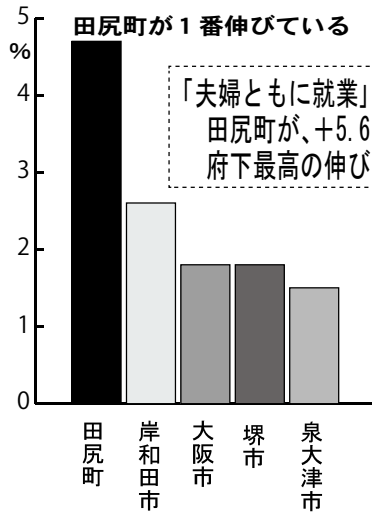
「女性の社会進出しやすい環境づくり」を掲げながら、待機児解消策は打ち出していない。冷たい町長だと言われてもいいのか？

小川議員は、原町長の「保育所待機児ゼロ」の公約をとりあげ、「どこに新しい待機児解消策があるのか？女性の社会進出しやすい環境づくり」を掲げながら保育所拡充もしないで、冷たい町長と言われてもいいのか？「広域保育も行き詰まりをむかえているのに、なぜ保育施設を拡充しないのか？」とたどしました。

「現施設の見直しをまず行う」と町長
原町長は「3歳児の一時預かり来年4月から）スタートするが、次の年には反省をふまえてすすんでいきたい。」待機児解消策については、「現施設を見直せばまだスペース的に余裕があると思うので、まず見直したい」などと答えました。

増えた町税収入を使って 保育ニーズの高まりに
保育施設を拡充するのが税の公平な使い方
共産党議員団の主張

府内 市町村別の「労働力率」の伸びの大きいベスト5
(国勢調査 平成17年と22年の比較)



田尻町が1番伸びている
「夫婦ともに就業」も田尻町が、+5.6%で府下最高の伸びをしめす

※ハイアンビレッジ 約220世帯で年間約3,000万円を超える町税を徴収(固定資産税・住民税の合計を推計)

平成17年～23年の7年間で推計しても田尻町は、ハイアンビレッジの住民から2億1千万円を超える町税をいただいている。

共産党議員団

共働き増加で保育ニーズが伸びている、
税収増分で拡張が当然と主張

原町政

「少子・高齢化」を主張、施設を拡張せず、
「3才児一時預かり」だけ実施

小川ゆうじの「ぶんぶん赤旗」読者だより

小川・吉開 検索

田尻町支部党活動募金 1口200円のお願

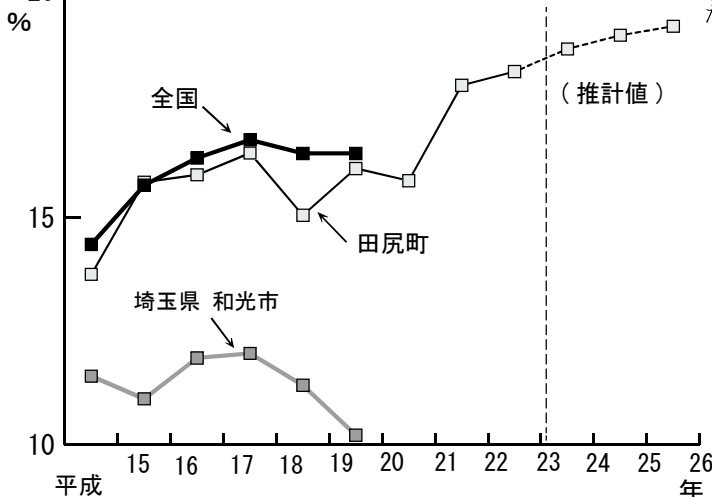
なんでも相談は 月・水・金の 午前10時～正午 465-9939

7月の弁護士相談は、13日(金) 夕方6時～8時 事前予約が必要

田尻町にもっとも効果的な介護予防事業を行うため、訪問調査を

6月議会 小川議員の一般質問

要介護・要支援認定率の推移



小川議員は、5月に視察をさせていただいた埼玉県和光市は、「自立支援」を基本理念とし、高齢者を「生活の主体」と位置付けた介護保険法にもつき、高齢者の尊厳とQOL(生活の質)の向上を目的に、要介護認定者の低減もしくは発生率の減少に実績を上げていることをとりあげました。そして、和光市では、実態にそくした計画となるようにアンケート未回収者には訪問調査を徹底しておこなったことを紹介、田尻町では、アンケート回収率が54%と低く、今後、もっとも効果的な介護予防事業をおこなうことを探るため、これからの訪問調査を行い、高齢者の尊厳と生活の質の向上を目的に介護認定率の低減につとめるべきだとたどしました。

今後3年間で65歳以上のすべての訪問調査を行う 担当課長が答弁
担当課長は「田尻町に配分される府の基金を利用して65歳以上の1800人を毎年、600人づつ3年間かけて包括支援センターで訪問しようと考えている」
原町長は「田尻町が取り組んでいるサービズなどに1人でも多くの方が参加いただき、みんな元気ですごせるように田尻町としても応援していきたい。」などと答えました。